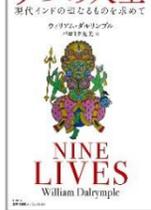


今年も読書週間がやって来ました。特別企画として篠崎図書館の全スタッフが一年間の中で最も印象に残った一冊を紹介します。

9つの人生

9つの人生



ウィリアム・ダルリンプル著
パロミタ友美訳
集英社
162頁
篠崎ほか所蔵

自ら健康な髪を引き抜いてジャイナ教の尼となった少女は、断食による死を「うつくしいもの」として、すでにその道を歩み始めている。経済発展著しいインドで、今もなお伝統や信仰に基づいた生き方を貫く人々の姿に圧倒されました。

「内向型の自分を 変えたい」と思ったら読む本



渡瀬 謙著
大和出版
361.4頁
篠崎所蔵

家族が自分の内向性を気にしていたことがきっかけで読んでみた本。著者自身も極度の人見知りで40過ぎまで悩み苦しみ、無理に性格を変えようとしていました。しかし、内向的な自分を受け入れ、このままで良いのだと気づいたことで、今では幸せに生活しているとのこと。そのための6つのステップとは？ 内気な自分に悩んでいる人に読んでほしい一冊です。

サグラダ・ファミリア



外尾 悦郎著
宮崎 真紀訳
原書房
523頁
篠崎ほか所蔵

ガウディの遺志を引き継ぎ、サグラダ・ファミリアの建築にすべてを捧げる日本人がいると知り、私はこの本を手に取りました。外尾悦郎さんの信条と世界観が詰まった一冊です。ガウディと心の対話を繰り返し、沢山のひと共々に教会を作り上げていく過程が興味深いです。

なんでもない一日の辞典



山口 諤司著
WAVE出版
814頁
篠崎ほか所蔵

みなさんは、一日の出来事をどのくらい覚えていますか？ 心を動かされても誰かに話したり、何かに記録したりすることもなく、忘れ去ってしまうような「なんでもない一日」。その中でかわす言葉や過ごす時間こそ大切にしたいと思える1冊です。

きのこ文学名作選



飯沢 耕太郎編
港の人
918頁
篠崎ほか所蔵

きのこは好きですか？ 可愛いものや毒々しいもの、美味しい茸や毒キノコ、色々ありますね。この本はそんな茸に魅せられた数多の作家達の茸愛溢れる一冊です。茸の様に変幻自在な文章が多種多様な装丁で繰り広げられます。皆様も是非めくるめく茸文学の世界へ！

カモメに飛ぶことを教えた猫



ルイス・セプルベダ著
河野 万里子訳
白水社
963頁
篠崎ほか所蔵

港の猫ゾルバは瀕死のカモメと出会い、彼女の遺した「卵を食べず、孵し、飛ぶことを教える」と約束する。港猫界の大家猫や、百科事典を愛する猫といった仲間の助けを借りてヒナを育てるゾルバ。だが飛ぶことを教えるには一体どうしたら？ 飛べない猫たちの奮闘や如何に。

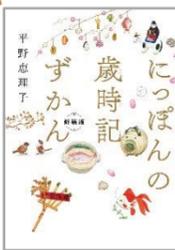
心配事の9割は起こらない



枅野 俊明著
三笠書房
188頁
篠崎ほか所蔵

色々な考えが渦巻いて、頭の中は大混乱。そんなときに読んでほしい。先のことを考えてもわからないし、ああすればよかったと後悔しても過去は変えられない。ではどうすればいいのか。「いま」「ここ」に集中する。考え方や行動のヒントがちりばめられている。目次を読むだけでも、役立つ本。

にっぽんの歳時記ずかん



平野 恵理子著
幻冬舎
J386頁
篠崎ほか所蔵

日本に古くから伝えられてきた季節の暮らし、自然、食べ物、昔の人々の知恵……。素朴で楽しいイラストと共に、現代の暮らしで忘れてしまっていることを思い出させてくれる一冊。慌ただしい日常生活の中で、心のゆとりがなくなってきたときに、ほっと一息つける本です。

映画の正体



押井 守著
立東舎
778頁
篠崎ほか所蔵

映画館離れが進んでいるようだ。鑑賞料の値上げや家庭での視聴環境の向上等、理由は色々あるのだが、最近では続編ばかりで面白くないという意見も。本当に続編映画は面白くないのだろうか。押井守が続編映画の裏事情を語りつくしています。

江戸の 絵本読解マニュアル



叢の会編
文学通信
913頁
篠崎ほか所蔵

本は遙か昔から存在し、描かれた内容から先人の暮らしを現代に伝えてくれる。草双紙とはマンガに少し似ていて、当時の人々にもきっと読みやすかっただろう。いつの世も人間と本は共にあったのだと思いを馳せた。偶然、近隣ゆかりの伝説が紹介されていて驚いた。

辯髪 シャーロック・ホームズ



莫 理斯著
船山 むつみ訳
文藝春秋
923頁
篠崎ほか所蔵

この本は「シャーロック・ホームズへの恋文である」とは作者の言葉だ。ホームズ作品をベースにした六篇は、清朝時代末期イギリス統治下の香港を舞台に探偵・福通と助手の華笙が難解な事件に挑む物語である。統治下の複雑な歴史背景とともに二人の活躍が描かれている。シャーロキアンでなくても楽しめる一冊。

天下大乱



伊東 潤著
朝日新聞出版
F1
篠崎ほか所蔵

豊臣秀吉死後、次の天下を争う中で、台頭してきた徳川家康。焦りを覚えた石田三成らは西の雄・毛利輝元を担ぎ上げる。両陣営の緊張は高まり、関ヶ原の戦いへ……。家康と輝元の両大将の視点で描かれていて、天下を巡る駆け引きに心躍りました。

9割の買い物は不要である



橋本 之克著
秀和システム
331頁
篠崎ほか所蔵

後悔した買い物は誰にだってあるはず。例えばビギナーズブックを自分の力と過信して買い続けてしまう宝くじ。これはコントロール幻想のせい？ 行動経済学という学問を知り、暮らしの中に取り入れてみたら、より良い買い物ができるかも。

折り紙の科学



萩原 一郎ほか著
日刊工業新聞社
501頁
篠崎ほか所蔵

子どもの頃から折り紙が好きでした。最近ではより実物に近い芸術的な作品が増え、すごいなーと驚いていたところ、今や折紙工学という新しい学問になり、産業化まで進められているなんて！ たった1枚の紙が身近な遊びから宇宙開発の一翼を担うまでに広がる折紙の進化の世界をお楽しみ下さい。

世界の言語入門



黒田 龍之助著
講談社
800頁
篠崎ほか所蔵

「あの国の言葉はどんなものか知りたいけれど、難しいのは嫌……」と思っている方は、この本がおすすめ。様々な言語について、著者自らの体験を踏まえて軽めに紹介してくれるため、外国語に触れるきっかけ作りにはピッタリの一冊である。

みらいめがね 2



荻上 チキ著
暮しの手帖社
914頁
篠崎ほか所蔵

「みらいめがね」とは、自分の視野を広げてくれるめがねだと思ふ。このとりとめのないエッセイ集を読んでいると、少し心が軽くなる。きつと凝り固まった考えが徐々にほぐされるからだ。視野を狭くしている「色めがね」をやめて、「みらいめがね」を掛けてみるのはどうだろう。

赤いモレスキンの女



アントワーヌ・ローラン著
吉田 洋之訳
新潮社
953頁
篠崎ほか所蔵

書店主が路地裏で女性もののバッグを拾うところから物語は始まる。彼はバッグの中身を確認しながら、落とし主への興味が抑えられなくなってしまふ。「え、そんなことしていいの？」と思ひながらも、どんどん物語の中に引き込まれていく大人のためのおとぎ話。

さぎなみのよる



木血 泉著
河出書房新社
Fキ
篠崎ほか所蔵

死期が迫っているナスミ(享年43歳)の思いから物語は始まります。以降は、残された家族、友人、知人それぞれの視点で「ナスミ」について語られてゆきます。話の始まりはショッキングですが、読後は温かい気持ちに包まれます。命がやどることを、「図書館の本みたいなもの」と表現されているところも素敵です。

そのメロディに魅せられて♪

図書館報 ぶらっつ★篠崎

79号/2023年10月1日発行(季刊)

「赤盤だぜ!!」 ウルフルズ KIウ09468 篠崎ほか所蔵

学生時代の国語の授業で、「韻を踏む」という詩の技法について習ったことがある。末尾の母音を連続して揃えることにより詩全体にリズム感を生む技法で、ラップや洋楽に多く使われるという。私は、言葉の面白さに心惹かれた。

今回ご紹介するウルフルズというロックバンドの歌詞には、「韻を踏む」ものが多い。ほぼ全ての作詞を手掛けるボーカルのトータス松本は、R&Bやソウルをルーツとし、過去にはサム・クックやマーヴィン・ゲイなどの名曲をカバーするアルバム『TRAVELLER』を発表している。

ウルフルズの曲からは、「難しいことは考えずに歌って踊って

楽しもう」というメッセージを感じる。しかし、歌詞の意味はこの次というわけではない。ウルフルズの魅力は、ストレートで力強く正直な歌詞だ。いつも近くで励ましてくれるような優しさもある。独特の言葉のセンスが愉快で、ダジャレのような言葉遊びが楽しい。まるで近所のお兄さんたちのような親しみやすさを感じさせる。そして、トータス松本のスカッと晴れた夏の空のような歌声が心地よい。

『赤盤だぜ!!』は、4年半の活動休止を経て作られた、ウルフルズ4枚目のベストアルバムである。メンバー自身のセレクトにより、デビュー当時の38曲を味わうことができる。



篠崎図書館館長が感じたことなどを記します。

読書好きということが知れ渡っているので、本関係のグッズをプレゼントされることがあります。中でも、どんな厚さの本にもかけることができる革製のブックカバーや、小さなパールがついている金属製のしおりはお気に入りです。10年以上愛用しています。

図書館で借りた本にも、自分のお気に入りのブックカバーをかけたたり、しおりを挟んだりすると自分の持ちものになった気がして、本自体に愛着が湧きます。

本を読み進めていくに従ってしおりの位置が変わっていきます。そのしおりを眺めて、まだまだ先があるぞ頑張って読もうとか、もうすぐ終わっちゃう名残惜しいなどか思いながら読むわけです。

今年の読書週間の標語は「私のペースでしおりは進む」です。読書をしていくとき、そんなしおりの存在にも目を向けてみると読書がまた面白くなるかもしれません。

スタッフのセレクション!

篠崎図書館スタッフが選んだおすすめ本を紹介します

「種時きもせず」

星野 富弘著 偕成社 723ホ 篠崎ほか所蔵

好きな詩集はありますか。今回紹介する詩画集は、暖かい水彩画と飾らない言葉がとても身近に感じられる一冊です。

私が初めて星野富弘さんを知ったのは、富弘美術館へ行った時のことでした。星野さんは若い頃、不慮の事故で手足の自由を失い、知人にメッセージを伝えるために口に筆をくわえて書き始めました。彼の作品は普段何気なく目にしている草花がキラキラと輝いて、まるで言葉をもったように見えます。遠くにある言葉ではなくて、すぐそこにある言葉です。

この本の中に「与えられることと失うことは 同じ重さらしい 散る花があって咲く花がある」という詩があります。少し心が軽くなり、失ったものよりも今あるもの、できることを大切にしたいと改めて感じさせられます。心が少し疲れたら、この詩画集を手にとってみませんか。そして、富弘美術館にも足を運んでみてはいかがでしょうか。静かに涙を流したり、暖かい気持ちになれたりするかもしれません。



編集後記

スポーツの秋ですが、残暑の厳しさにやられています。(風雲ふわふ丸) / 今はただ、ひたすら冬が恋しいです。(ぱるめりん) / 「漂泊の思いやまず」旅にでる。(たてじま) / 秋が一番好きです。あつという間に過ぎてしまう。(すずの木) / 秋の夜長……長期休暇が欲しいです。(卯月)

編集・発行: 江戸川区篠崎図書館
住所: 〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 しのぎ文化プラザ内
TEL: 03-3670-9102
[しのぎ文化プラザHP] 内篠崎図書館ページ
<https://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>



江戸川まいにんぐ 発掘 第79回 角野栄子さんと「魔法の文学館」

江戸川区内のイベントやスポットについてスタッフが調査して身近な情報をお届けする地域密着型のコーナーです。

先日、角野栄子さんの館長就任が発表された「魔法の文学館(角野栄子児童文学館)」が、南葛西のなぎさ公園にオープンします(2023年11月3日予定)。

『魔女の宅急便』や『アッチ・コッチ・ソッチの小さなおぼけ』シリーズなどでおなじみの児童文学作家、角野栄子さんは江戸川区と縁が深く、3歳から23歳まで小岩に住んでいたそうです。当時の暮らしの様子は、家の間取り図と共に『こんな家に住んできた』という本に掲載されています。ぜひ読んでみてください。

角野さんは2018年に子どもの本に貢献してきた作家に贈られる「国際アンデルセン賞・作家賞」を受賞されました。「国際アンデルセン賞」は、選考水準の高さから「小さなノーベル賞」と称されています。江戸川区ではその偉業を称えて「区民栄誉賞」を創設、角野さんを記念すべき初の受賞者として表彰しました。さらに、角野さんの功績を後世に伝え、児童文学の素晴らしさを発信すると共に、子供たちの想像力と創造力を育む場として、魔法の文学館(角野栄子児童文学館)が開設されることになったのです。

設計は、東京五輪のメインスタジアムとなった国立競技場などを手掛けた隈研吾さんです。これまで、その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、数々の名建築を設計してきた隈さんですが、今回の魔法の文学館も、なぎさ

公園の地形を活かした建物ようです。

館内は角野さんのテーマカラーの「いちご色」を基調とした可愛い内装で、『魔女の宅急便』に出てくるコリコの町や角野さんのアトリエなど、角野さんの世界観が体験できるスポットになっているようです。角野さんの魅力がたくさん詰まった魔法の文学館は、江戸川区の新名所になるのではないのでしょうか。

篠崎図書館ではオープンに先駆け、昨年2月より「角野栄子さんコーナー」を開設しています。魔法の文学館のデザインを参考に、いちご色の装飾に縁どられたコーナーでは、角野さんの作品はもちろん、年表や写真、角野さんに関するキーワードパネルのほか、関連書籍なども多数展示しています。現在、期間展示「篠崎図書館スタッフおすすめ角野さん本」と題し、本の展示を行っています(11月まで)。今後、魔法の文学館の情報も随時更新していきますので、ぜひお立ち寄りください!

○参考文献
『(仮称)江戸川区角野栄子児童文学館基本構想』
江戸川区 K1-90 篠崎ほか所蔵
『こんな家に住んできた』 稲泉 連著 文藝春秋 280イ 篠崎ほか所蔵
『海外文学賞事典』 日外アソシエーツ株式会社編集
日外アソシエーツ R902カ 篠崎ほか所蔵